

クラブ主体で行われた初の試み 新しい「しらゆり祭」



左から／中村有紀さん、兼元康江先生、森永真美さん

恒例の「しらゆり祭」が今年も9月18日(金)・19日(土)・24日(木)に開催されました。今回は校舎の改修工事の関係から、従来のクラス単位での発表からクラブを主体としたものへと大きく様変わり。同祭の49年の歴史で初めての試みとなりました。

生徒会会長でもある3年生の中村有紀さんは「いつもの年と違うことは

大きなプレッシャーでしたが、チームワークや思いやり、周りの状況を見て動くことなど、大切なことをたくさん学び高校生活で一番の思い出となりました。見守ってくださった先生方や支えてくれた仲間には本当に感謝しています」。

また実行委員長を務めたしらゆり文化常任委員長の3年生の森永真美さんは「みんなの『ありがとう』の言葉がうれしくて、終わった後は号泣してしまいました。生徒たちが率先して創り上げていくしらゆり祭の伝統を、これからもつないでいってほしいですね」。

学院創立120周年の記念すべき年のしらゆり祭。実行委員会の指導に当たられた兼元康江先生も「今回は部活が主体という初めての試みでしたので、当初は周りの理解と協力を得るのが大変でした。でも苦勞の甲斐があり今年は特に好評の声をいただくことができました。生徒たちを信頼し、自主性を尊重したことが成功の鍵となったと思います」と笑顔で語られました。おもてなしの心と高校の伝統である自立・自律・連帯の精神が息づいた今年のしらゆり祭は、来場者の方々にも大変喜んでいただけました。



幼稚園・中学校・



5年に一度行われる学院最大の行事「幼稚園・中学校・高校合同体育祭」。中でも今年は創立120周年とも重なり、学院の歴史に残る大きな節目の大会となりました。今年は特別に大型連休後半の9月26日(土)に開催。土曜日ということもあり、会場となった愛知県体育館には、入りきれないほどの来場者。そのため事前に保護者の方の来場を、生徒1人につき1名に制限しなければならぬほどでした。

大会運営の中心となった江尻先生は「生徒たちが一生懸命準備したことです。ですから、なんとしても成功させてあ



「共に生きる」をテーマに 開催された恵愛祭

中学校のDignity(総合学習)の集大成として、地域住民の方々にも親しまれている「恵愛祭」。大きな節目となる今年は頭文字を生かして「K(君がいるから)」「E(笑顔を絶やさず)」「I(生きていける)」「A(愛を叫んで)」「I(いつまでも)」をテーマに、9月23日(水)・24日(木)に開催されました。このテーマは生徒たち自らが、言葉を厳選し一生懸命考えたものです。今年は恵愛館がリニューアルし、展示も例年以上に趣向を凝らしたものとなりました。

同祭の運営に当たった生徒会顧問の中田路実先生は「この日を楽しみにしている生徒たちのやる気を、どのように形にするかということ。それが一番の課題でしたね」。生徒会会長の酒

井彩伽さんは「記念になる年なので来場者の方たちに、昨年とは違う恵愛祭を感じてもらいたいと思いました」。同副会長の鈴木珠央さんも「学院の歴史を調べる中で重みと、先輩たちの歴史を受け継いでいくことの大切さを実感しました」。また塚本万利奈さんと田中文菜さんは「時にはけんかになることもありましたが(笑)、すべてがいい思い出です」。当日は天候にも恵まれ一般公開日は4,000人以上が来場。学院の120年の歴史を紹介した展示室では、感慨深げに見る卒業生の姿も多く見られ盛況のうちに終了しました。



左から／鈴木珠央さん、塚本万利奈さん、酒井彩伽さん、田中文菜さん

高校合同体育祭

げたかったですね。毎年、体育祭では生徒たちが意外な才能を発揮したり、普段とは違う一面を見せてくれるので、私たちにとっても楽しい行事です。中でも今年には大きな節目でしたので、新しい試みもたくさん取り入れました。当日は上級生の生徒が下級生の面倒をみたり、学年を超えた交流も生まれ、生徒との信頼がより深まったと感じます。金城生は本番に強いですね。

生徒たちの個性が存分に発揮された今回の合同体育祭は、まさに120周年の記念行事としてふさわしいものとなりました。



図書館と学生をつなぐ架け橋に ライブラリーサポーターズ

大学図書館で2年前から活動を続ける「ライブラリーサポーターズ」。現在、20人の学生が書架の整理をはじめ、図書館だよりの作成、展示コーナーの企画などさまざまな活動を行っています。中でも「選書会が楽しい」と話すサブリーダーの河合さん。



「書店で図書館に置く本を選びます。好きな本をお勧めするのが楽しいですね」。またラウンジの展示コーナーの展



左から／文学部日本語日本文化学科4年水越恵さん、
文学部日本語日本文学科3年稲福麻美さん、
人間科学部心理学科2年河合奈美さん

示替えも毎回テーマを決めて実施。「昨年、源氏物語をテーマに展示した時は源氏絵巻や折り紙を使って華やかに展示しました」とリーダーの稲福さん。「本のポップを作るのも楽しいです」と話します。「図書館っていいね、といわれて嬉しかった」と話す4年生の水越さんは「友達が本の探

し方など困っている時にアドバイスできるのが嬉しい」とも。もっと図書館の楽しさを知ってほしいと皆さん意欲的に活動を続けています。

こうした学生たちの活動について「図書館と学生をつなぐ架け橋になってほしい」と柴田道子図書館長も期待されます。「学生の自主性を尊重しつつもっと図書館と関わってもらえたら、と思います」。ライブラリーサポーターズの活動は今後もさらに広がっていきます。



サポーターズのメンバーが作ったポスターは、東海地区私大図書館のポスターセッションで一番の評価を受けました

Kindergarten [幼稚園]

合同礼拝



毎週水曜日10時半から、聖話講師として日本基督教団名古屋北教会牧師、渡部信子先生をお招きして全園児と父母(自由参加)による合同礼拝を行っています。

年長・年中児が年少児を間に座らせてみんなで心を神様に向け、信子先生から聖話を聞きます。特に年長児は毎週聖話の続きを心待ちにしています。また、年長児は献金当番とし

て集めた献金を前へ持っていくお手伝いもします。お兄さん、お姉さんの間にちょこんと座って、見よう見まねで礼拝している年少児も「このお祈りをイエス様によってお願いします。アーメン」と可愛い手を組み祈ります。

幼い心に、この小さな礼拝が大きく刻み込まれ、卒園しても時かれた“御言葉の種”が育ち、キリストに繋がり続けることを信じて祈っていきます。

父母の会より遊具を寄贈していただきました

金城学院120周年記念として父母の会から、2メートル四方の赤い屋根のログハウスが贈られました。

砂のクッキーやケーキが並んでお店屋さんになったり、ウルトラマンや仮面ライダーの基地になったり、子どもたちが木の温もりに包まれて遊ぶおうちです。

「幼稚園がお休みの時は、きつとタヌキさんやウサギさんが遊びに来るよね」と語りかけてくれる子がいました。本当にそんな気がしてくる可愛いおうちです。

素晴らしい記念品を寄贈していただき、心から感謝申し上げます。

